

花園土地区 画整理事業

小公園・道路の造成など大改造 いままでにない近代的な都市づくりを

きのう農地であった所に
きょう住宅が建てられてい
た—というこぼが表現す
るように、この頃の留萌市
の街は激しく動いています
しかし、農地ばかりでな
く、このようなことを放つ
ておくと、不規則な街並み
ができたり、公共施設を設
けようとしても土地がな
かつたり—といういろいろ不便が
できます。

このように、計画的なま
ちづくりは、都市の発展に
なくてはならぬものです。

ここに都市計画の必要さ
があるわけですが、いま留
萌市では、東光小学校周辺
の花園土地区で都市計画事
業を進めています。

写真—このようなまち
も都市計画事業から
(市内中央大通り)

都市計画事業といえ、
ます最近では、元町地区の
都市計画事業を思い出され
ることと思います。

いままで、元町地区は、
ともすれば暗い感じを与え
ていたのが、都市計画事
業を行った後は、整然と基
盤目に整理された街並み、二
級国道の切りかえや舗装に
よつて見ちがえるようにな
ちになったことは、みなさ
まよくご存じの通りです。

とくに、この事業が行わ
れるには、新しく作る道
路にかゝる私有地を、別
土地をみつめて権利を正
したり、家屋移転に
で移転費を補償したり、非
常にめんどうな手続きと多
額の子算が必要だつた
ですが、それにもま
地元の都市計画事業に對
する理解がこの事業を完成
させたともいえます。

いま行われている花園地
区の都市計画事業は、留萌
が市制をひいてから行つた
どの都市計画事業よりも大
規模なものです。

もともとこの地区は、付
近に駅前の繁華街を持つ都
市の形態上重要な所にあり
ますが、留萌市のまちが東
に伸びるといふ現在の状況
から、この地区を早い機会
に都市計画を行なうこと
になったものです。



総面積約七万一千坪に及
ぶこの地区に、昭和四十
一年の事業完成をめざして、
昭和三十七年から事業が進
められ、駅前からの直線道
路をはじめ、多くの道路、
さらに二つの小公園と、い
ままでとは見違えるほどの
まちにしようというわけ
です。

その事業費も、基本事業
費約一億八千万円をかけ、
そのうち国庫補助が三分の
二、残る約六千万円の市費
持出しで行われることにな
つています。

つまり、都市の大改造
—ということばがあらはまる
ような、大がかりなもので
す。

この地区は、現在工業地
区、商業地区、住宅地区が
入りまじつていますが、こ
の都市計画事業後は、工業
に使うことはさけ、もっぱ
ら商業、住宅地区として性
格づけられることになりま
す。

とくに、二つの小公園な
どとともに、住宅には、総
体の五〇%の土地利用が考
えられています。

都市計画を行うには、「
区画整理事業」「公園事業
」「街路事業」などがあり
ますが、花園地区のは、区
画整理事業として行われ
ています。

土地区画整理事業は、都
市の形態を整備して、理想
的なものとするために行う
ものですが、対象となる多
くの私有地、家屋などを市
が一応あずかる形をとつて
(買取ではなく)換地計画
終了後の評価額によつて減
価分を補償したり、街路や
公園の用地なども一定の範
囲の土地から少しづつ土地
を出しあつてもらつて、一
つのものにまとめる公用減
歩なども行なうもの。

これですと、一部の土地
にのみ犠牲がかららないで
負担が公平、しかもきわめ
て少ない費用で能率的な事
業といえます。

この事業の難かしい一つ
に家屋移転があります。
およそ百三十戸にのぼ
りましたが、現在まで二十三
戸の移転が完成し、残るも
の、大部分が移転のメド
がついたということで、事
業は順調に進められていま
す。

しかし、せつかりつば
な計画も市民みなさまのご
理解とご協力がなければ実
現できません。

留萌市の将来に百年のく
いを残さないよう、計画通
り四十一年度の工事完了を
お互いに協調して進めたい
ものです。



△写真説明▽
完成した花園地区の
道路—下左図⑧の道路

花園地区の家屋移転も
順調に進んでいます

都市計画進む
留萌市の航空写真

